

## 新潟焼山の火山活動解説資料（令和4年7月）

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・表面現象の状況（図1、図2-①②、図3-①②、図5）

噴煙活動は低調に経過しました。今期間、山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は観測されませんでした。

#### ・地震や微動の発生状況（図2-③④⑤、図3-③④、図4、図6）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しています。火山性微動は観測されていません。

3日から13日にかけて、新潟焼山の山頂から東約3km離れた場所の深さ数kmが震源と推定される地震が時々観測されました。同様の地震は、2006年、2010年、2015年、2017年にも発生しています。この地震の前後で、その他の観測データに変化がなく、さらに震源が火口から離れていることから、今のところ火山活動が高まっているとはみていません。

#### ・地殻変動の状況（図2-⑥⑦、図7）

GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。

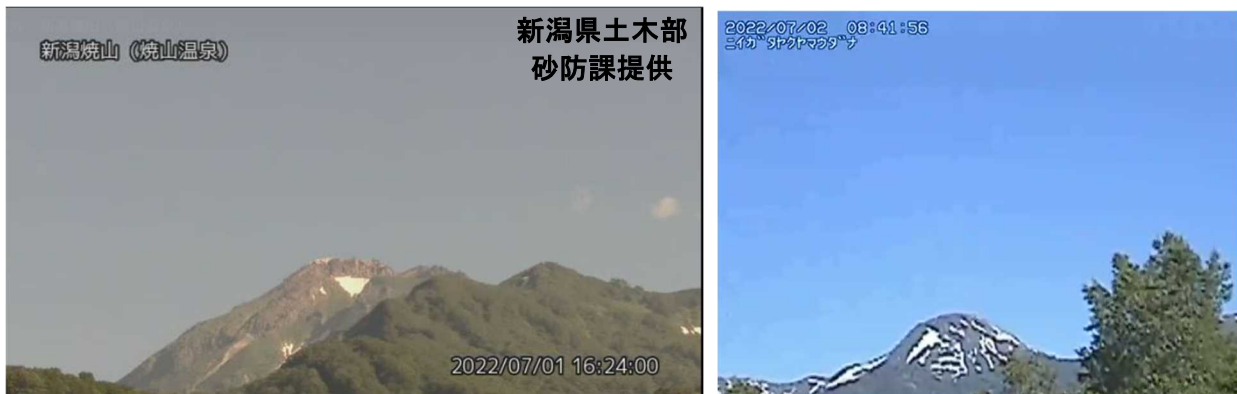


図1 新潟焼山 山頂部の噴煙の状況  
（左：焼山温泉監視カメラ（7月1日）、右：宇棚監視カメラ（7月2日）による）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和4年8月分）は令和4年9月8日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、新潟県及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

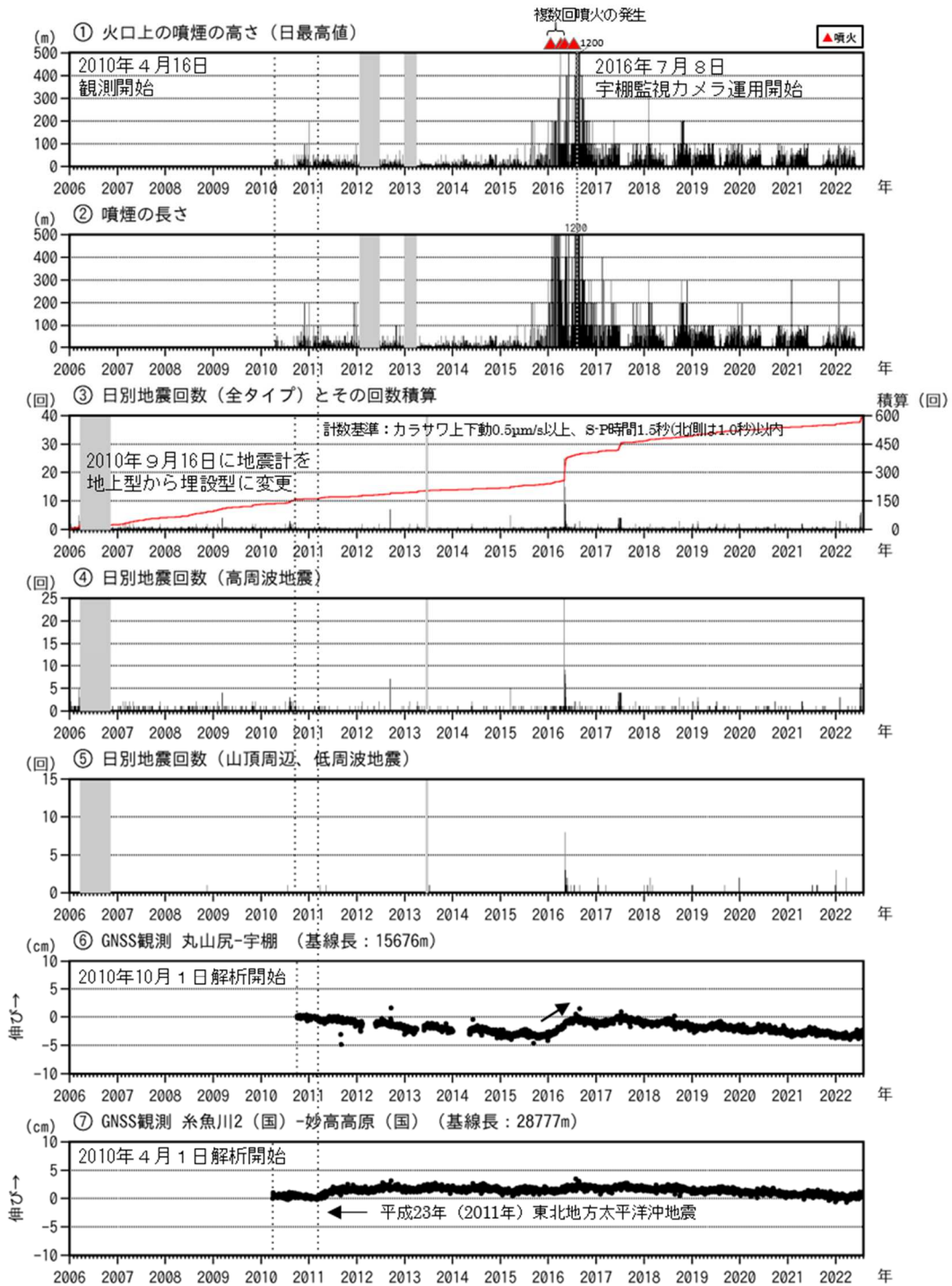


図2 新潟焼山 火山活動経過図（2006年1月1日～2022年7月31日）

（国）：国土地理院

①～⑤ 灰色部分は機器障害による欠測を示します。

①② 夏場には、視界不良のため山頂部が見えないことが多くなります。噴煙の高さ（①）は強い風の影響を受ける場合があるため、風の影響を受けにくい噴煙の長さ（②、図5参照）のグラフも示しています。2016年7月8日に宇棚監視カメラの運用を開始しました（宇棚監視カメラの位置は図7参照）。それ以前とは観測値の統計に不連続があります。

④⑤ 地震の主な種類（図6参照）ごとの回数を掲載しています。

⑥⑦ 図7のGNSS基線⑥⑦に対応しています。空白部分は欠測を示します。平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震によるステップを補正しています。

- ・⑥の基線で2016年1月頃から2016年夏頃にかけて伸び（矢印）の変化がみられました。
- ・2016年5月頃に火山性地震が増加し、低周波地震も発生しましたが、2016年6月に減少し、それ以降火山性地震は少ない状態で経過しています。

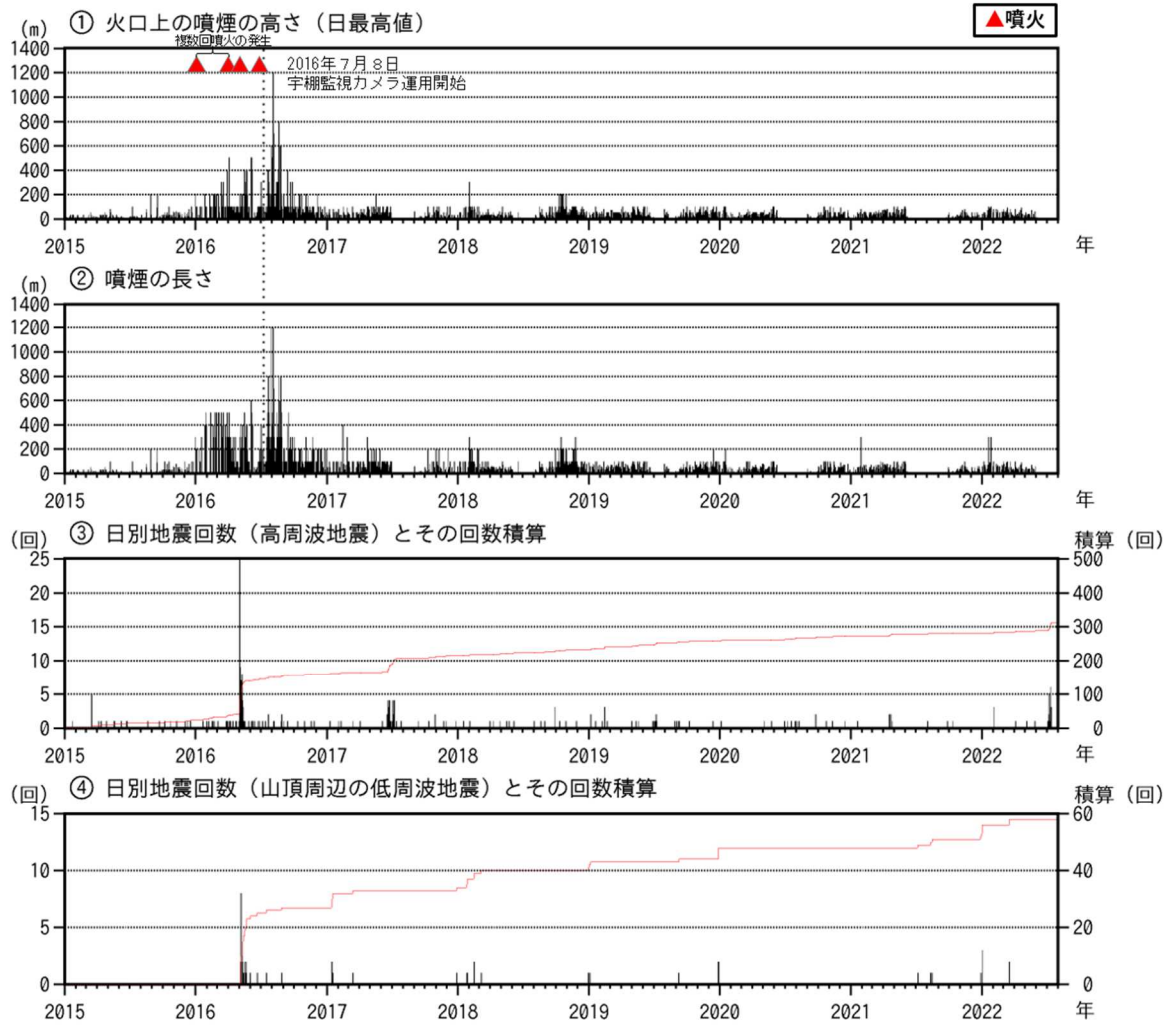


図3 新潟焼山 火山活動経過図（短期）（2015年1月1日～2022年7月31日）

①② 夏場には、視界不良のため山頂部が見えないことが多くなります。噴煙の高さ（①）は強い風の影響を受ける場合があるため、風の影響を受けにくい噴煙の長さ（②、図5参照）のグラフも示しています。2016年7月8日に宇棚監視カメラの運用を開始しました（宇棚監視カメラの位置は図7を参照）。それ以前とは観測値の統計に不連続があります。

③④ 地震の主な種類（図6参照）ごとの回数を掲載しています。

- ・今期間、山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は観測されませんでした。
- ・3日から13日にかけて、新潟焼山の山頂から東約3km離れた場所の深さ数kmが震源と推定される地震が時々観測されました。

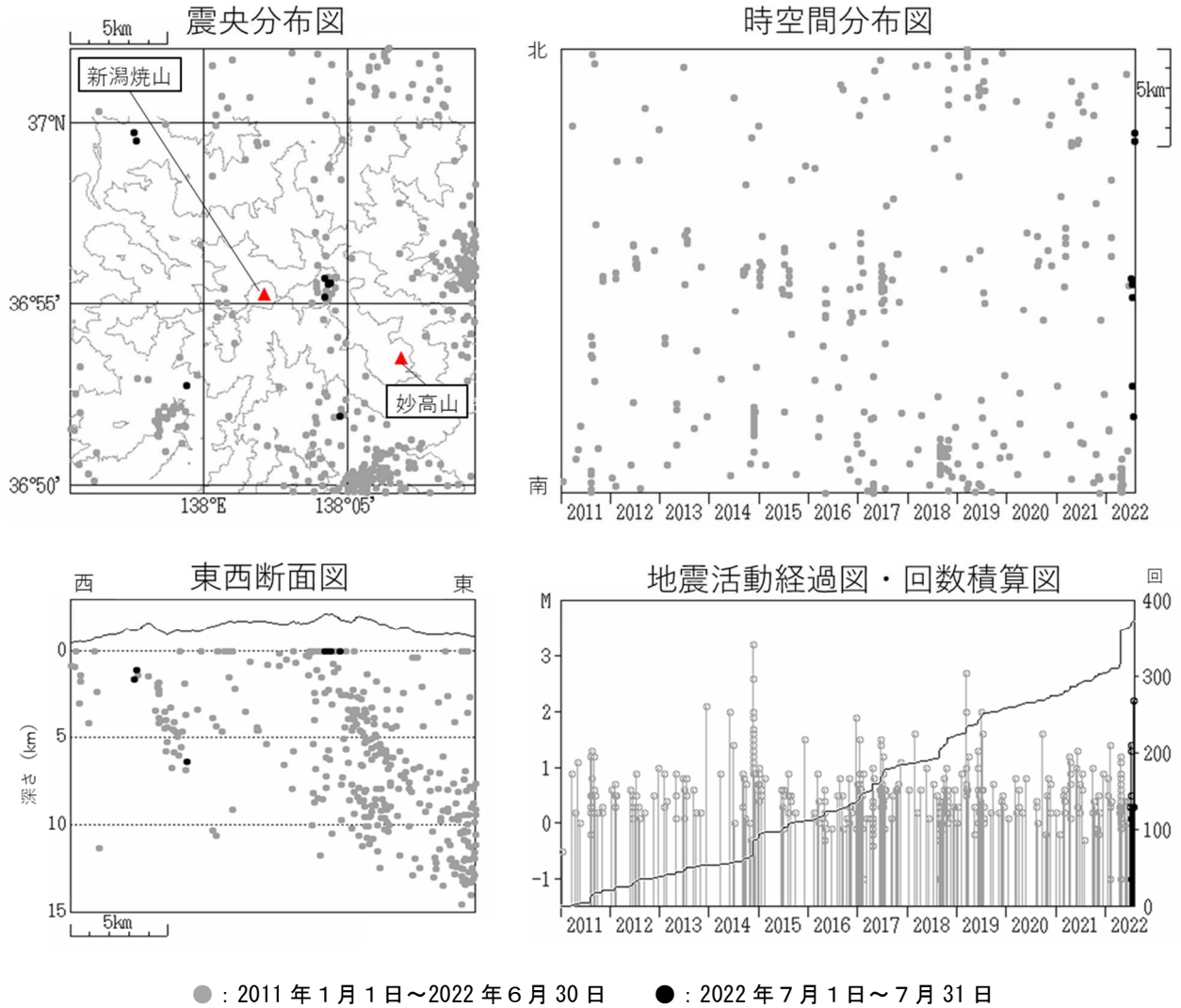


図4 新潟焼山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動(2011年1月1日～2022年7月31日)

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

この図では、関係機関の地震波形を一元的に処理し、地震観測点の標高を考慮する等した手法で得られた震源を用いています（ただし、2020年8月以前の地震については火山活動評価のための参考震源です）。

- ・ 3日から13日にかけて、新潟焼山の山頂から東約3km離れた場所の深さ数kmが震源と推定される地震が時々観測されました。

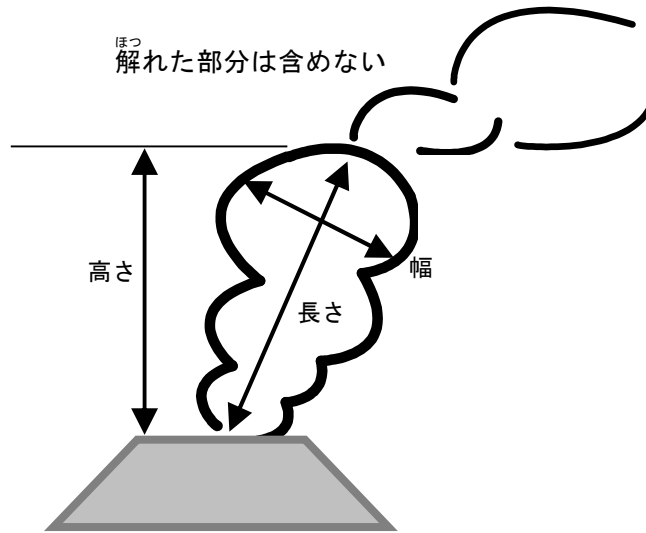
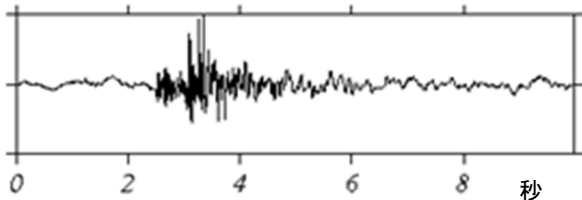


図5 噴煙の長さ、幅、高さの概念図

①高周波地震 (A型地震)

P, S相が明瞭で卓越周波数は10Hz前後と高周波の地震



②低周波地震 (B L型地震)

P, S相が不明瞭で卓越周波数が約3Hz以下の地震

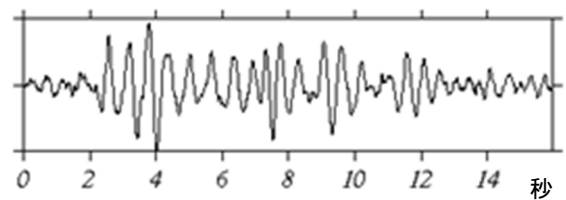
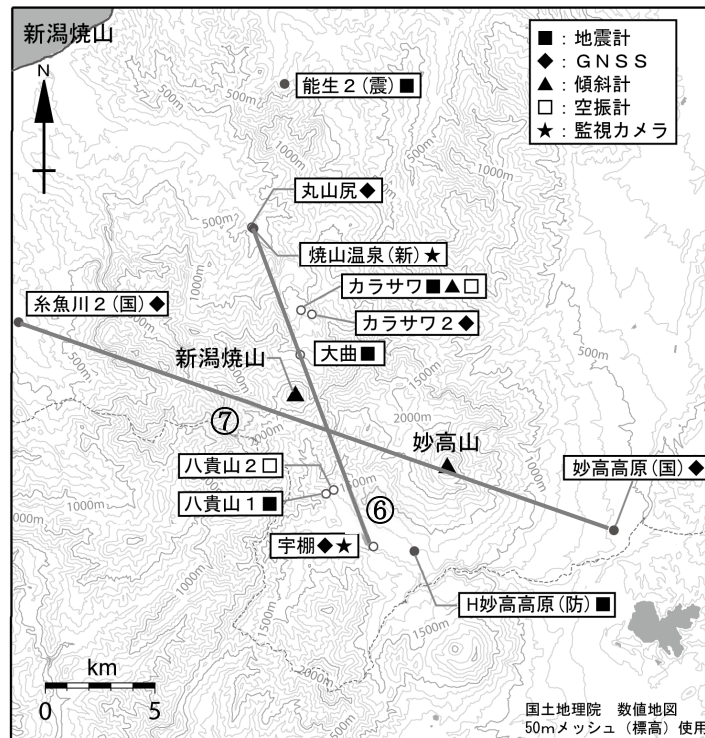


図6 新潟焼山 火山性地震の特徴と波形例



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所、(震)：東京大学地震研究所、(新)：新潟県

図7 新潟焼山 観測点配置図

GNSS 基線⑥⑦は図2の⑥⑦に対応しています。